

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

西行法師、男なりける時、<sup>①</sup>かなしくしける女の、三四ばかりなりけるが、重くわづらひて、<sup>A</sup>限りなりけるころ、院の北面のものども、弓射て遊びあへりけるに、<sup>B</sup>いざなはれて、心ならず<sup>②</sup>ののしりくらしけるに、郎等男の走りて、耳にものを<sup>C</sup>ささやきければ、心知らぬ人は、<sup>\*</sup>なにとも思ひいれず。西住法師、いまだ男にて、源次兵衛尉とてありけるに、目を見合せて、「このことこそすでに」とうちいひて、人にも知らせず、さりげなく、いささかの気色もかはらで<sup>D</sup>ゐたりし、<sup>③</sup>ありがたき心なりとぞ、西住、のちに人に語りける。

〔十訓抄〕

5

\*男なりける時||まだ出家前の時  
\*なにとも思ひいれず||気にも留めな  
かった

問1 波線部①～③を訳せ。

問2 傍線部A～Dの主語を本文中の言葉で答えよ。

問3 二重傍線部「このこと」の内容を説明せよ。

問 4 波線部③「ありがたき心」とは誰のどのような振舞に対して西住が思ったものか、わかりやすく説明せよ。

---

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、長能<sup>ながたふ</sup>、道済<sup>みちなり</sup>といふ歌よみども、いみじういどみかはしてよみけり。長能は、<sup>(1)</sup>かげろふの日記したる人の<sup>(2)</sup>せうと、伝はりたる歌よみ、道済、信明<sup>しんあき</sup>といひし歌よみの孫にて、いみじくいどみかはしたるに、鷹狩<sup>たかがり</sup>の歌を二人よみけるに、長能、

あられ降る交野<sup>まいたの</sup>の御野<sup>みの</sup>のかり衣ぬれぬ宿かす人しなれば

道済、

ぬれぬれもなほ狩りゆかむ<sup>\*</sup>はしたかのうは毛の雪をうち払ひつつ

とよみて、おのおの、「我がまさりたり」と論じつつ、<sup>\*</sup>四条大納言のもとへ二人参りて、判せさせ<sup>\*</sup>たてまつるに、大納言のたまふ、「<sup>(3)</sup>ともによきにとりて、あられは、宿かるばかりはいかでぬれむぞ。ここもとぞ<sup>(4)</sup>劣りたる。

歌がらはよし。<sup>(5)</sup>道済がは、さ言はれたり。末の世にも、集などにも<sup>(6)</sup>入りなむ」とありければ、道済、<sup>(7)</sup>舞ひかなでて出でぬ。長能、もの思ひ姿にて出でにけり。さきさき何事も長能は上手<sup>うはて</sup>を打ちけるに、このたびは本意<sup>ほんい</sup>なかりけりとぞ。

\* 交野の御野 || 淀川の左岸、今の枚方市付近にあった皇室領の遊獵地。  
\* はしたか || 鷹の一種。鷹狩に用いる。  
\* 四条大納言 || 藤原公任。  
\* たてまつる || 謙讓の意を表す補助動詞。

問1 傍線部(1)は、具体的に誰のことか、漢字で記しなさい。

問2 傍線部(2)の意味を記しなさい。

問3 傍線部(3)は何と何のことか、記しなさい。

問4 傍線部(4)は、どういうところが「劣りたる」と言っているのか、具体的に説明しなさい。

問5 傍線部(5)の「道済が」と「は」との間には、省略されている語があります。その語は何か、漢字で記しなさい。

問6 傍線部(6)を品詞に分け、活用のあるものは活用形を記しなさい。

問7 傍線部(7)の行動には、どのような気持ちが表れているか、その気持ちを二字で記しなさい。

---